

グループ⑤ 今治北高等学校

(題材) 今治市再発見プロジェクト

魅力と課題	
<p>(魅力)</p> <p>【有形のモノ】 大山祇神社宝物館、巻物、石垣、因島水軍城、甘崎城跡、日本遺産フェスティバル、日本遺産登録、鶴姫まつり、村上水軍ミュージアム</p> <p>【無形のモノ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・棕浦法楽おどり ・苗字「村上」 ・村上水軍ならではの潮を読む航海術(年に1回、5月-7月に潮が引いて道が現れる)が現在の来島造船所の知識にいかされている ・地域に貢献する理性的な海賊だったということ(一般がイメージする海賊とは異なる)大山祇神社で歌を詠み勝利祈願 ・鶴姫伝説(大島で活躍した姫) ・文学作品、村上海賊の娘(マンガ・文庫本) ・『KAIZOKU』 	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無形のモノを伝えるコンテンツが不足している ・当時を知る人がおらず、村上水軍について知識を持っている人を見つけづらい ・コロナウイルス拡大→潮流体験など村上水軍の学習をする機会が失われている ・今治市民であっても村上水軍がどのような組織で何をしてきたのか説明できる人は少ない
課題を解決するためには	
<p>(自分達で取り組む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・詳しい人を探す(学芸員さんに聞く、フィールドワークで聞いていく、市民ラジオ「ラジオバリバリ」で呼びかけ、今治市民アンケート) ・アンケートをつくる(今治市初村上水軍全市民アンケート) ・村上水軍について詳しい人にインタビュー ・潮流体験のガイド音声に地域の声も ・鶴姫まつりと連動してもらう ・郷土学習と協力、高校生が郷土学習をガイド ・自分たちの「声」で伝えていく(大島の潮流体験の場、ミュージアム周辺、鶴姫祭りでガイド) ・パンフレットをつくる、地元の小中学校に配る ・村上水軍に関連する身近な資源を住民主体でみつける 	<p>(行政に期待すること)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郷土の歴史を学ぶ機会を作ってほしい(ex.学芸員と学生のマッチング、村上海賊ミュージアムの見学) ・村上水軍をはじめ、関連する歴史文化資源の掘り起こしや発信を積極的にしてほしい ・地元の歴史の継承、普及啓発に取り組んでほしい ・コロナウイルスの拡大で活用できない有形コンテンツもあるが、無形のコンテンツも含め、可能な方法で魅力を発信してほしい
目指したい未来	
<ul style="list-style-type: none"> ・村上水軍に関連する身近な資源を市民全体で見つける ・新しく発見したことしたことを市民が市民へと伝えていく 	

